

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

本当に真面目に平和ということを考えるならば、戦争を知らなければ決して語れないだろう。だが、戦争の内実を知ろうとしなかった。日本という国は、あれだけの戦争を体験しながら、戦争を知ることには不勉強で、不熱心。日本社会全体が、戦争という歴史を忘却していき、一つの進歩のようには思いついていない。日本人は戦争を知ることから逃げてきたのだ。ロンドンには「戦争博物館」というものがある。ここには第一次世界大戦以降の戦争の歴史が淡々と展示されている。ナチスドイツの制服や武器といったものまでもドキュメントとしてある。しかし、決して非難めいて陳列されているわけではない。また館の入口には館長の言葉として、こう書かれている。「展示をしつかりとご覧下さい、全て現実にあった出来事です。そして後は自分で考えることです」。

今改めて私は、太平洋戦争そのものは日本の国策を追う限り不可避なものだったと思いついて。そしてあの三年八月は、当時の段階での文明論、あるいは歴史認識、戦争に対する考え方など、日本の国民的性質がすべて凝縮してある。最良の教科書なのだ。太平洋戦争を通じて、無限の教養を見出すことができるはずである。現在の大量化された社会の中で、正確な歴史を検証しようとする試みるのは難しいことかもしれない。歴史を歴史として提示しようとするのは、必ず「侵略の歴史を前提にしろ」とか「自虐史観で語るな」などといった声が湧き上がる。しかし戦争というものは、善いとか悪いとか単純な二元論だけで済まされる代物ではない。あの戦争にはどういう意味があったのか、何のために三〇万人も日本人が死んだのか、きちんと見据えなければならぬ。歴史を歴史に返せば、まず単純に「人はどう生きたか」を確認しようじゃないかということに至る。そしてそれらを普遍化し、より緻密に見て問題の本質を見出すこと。その上で「あの戦争は何を意味して、どうして負けたのか、どういう構造の中でどういうことが起こったのか」それらを明確にすることである。すでに遅きに失しているかもしれない。しかし、我々は何のためにこの時代に生きているのか、この国は何か、と考えるとき、太平洋戦争を考えないで逃げていては決して答えはでないだろう。今その最後のチャンスではないかと思う。

※作問の都合上、改編した箇所があります。(保阪正康『あの戦争は何だったのか 大人のための歴史教科書』より)

語注

- ・内実：内部の事情。本当のところ。
- ・文明論：あらゆる文化圏(一定の文化により結びつけられた地域)の思想・風俗・社会・政治・経済などを比較し、評価した論説。
- ・日本の国民的性質：一般的には、礼儀正しい・集団行動と秩序にこだわりがある・時間や約束を守る・仕事熱心・自己主張や自己表現が下手・言動が誠実などが挙げられる。
- ・大衆化：この場合、誤った歴史観が一般民衆に広まり、親しまれるものになること。
- ・自虐史観：日本の歴史の負(悪い)の部分のことさらに強調する一方で、正(良い)の部分を通小評価し、日本を見下げる歴史に対する考え方のこと。
- ・二元論：ある対象について考えるとき、二つの根本原理(物事が成り立つそもそもの大本)を使って説明する考え方。
- ・普遍化：すべてのものに共通に存すること。どんな時代、どんな世界でも通用すること。一般化と同じ。
- ・緻密(ちみつ)：綿密なこと。きめ細かいこと。
- ・遅きに失している：時期に遅れて役に立たない。遅すぎて間に合わない。

設問

問

この文章は、本書の「はじめに」の一部です。この本は「戦後六十年」を迎える二〇〇五年に発行されたものですが「戦後七十四年」目の現在も太平洋戦争をめぐるさまざまな「歴史問題」が起こっており、筆者の主張は、実現していないように思われます。この文章を参考に後の語群の語句をすべて用いて、きみが考える『平和』を考えるのに必要なことを百字程度で述べなさい。(ただし、指定の語句はどのような順序で用いてもかまわないものとします。)

・善悪の二元論 ・平和 ・戦争 ・忘却する ・最良の教科書 ・意味 ・明確にする ・逃げない

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

リナは、はだしで なんみんキャンプのいりぐちにか
 けつきました。きゆうえんかつどうかの おじさんたち
 が、トラックのくだいから ふるぎをわけてくれるから
 です。みんな、すこしでもいいものをもらおうと、おら
 しいへしあいでいます。リナは、しゃがんでをの
 びし、なんでもいから つかもうとしました。ひとな
 みは、ひきはじめました。すなほこりのまう リナのあ
 しもには、まあらしいサンダルが来たほうだけ
 こつていました。まんなかに あおいはなざりのつ
 た、きいろのサンダルです。はいてみると、ぴったり
 十さいのリナは、もう二年も、くつをはいていません
 でした。もうかたほうをさがして、あたりをみまわすと、
 ちかくにおんなのこがひとりたっていました。リナより
 ほそく、あさぐろいのはだの そのこも、あおときいろの
 サンダルをはいています。「はじめまして、こんには」
 とリナは、あいさつをしました。おんなのこは、たみ
 つめるばかりです。そろいのズボンとシャツをきた そ
 のこのあしは、ひびわれて、はれていました。リナが
 はじめてキャンプにきたときも、そうでした。おんなの
 こは、きゆうにせなかをむけて、さんだるをはいたまま
 いてしまいました。

よくあさ、リナは、かたあしに、すてきなサンダルを
 はいて、せんたくをしていきました。サンダルをよごさ
 ないように、きをつけて、おがわへむかいます。アフガ
 ニスタンから、パキスタンのペシャワールにある、なん
 みんキャンプまで、ながいながいみちのり、あるいて
 きたときのくつは、ぼろぼろになって、はけなくなつて
 しまいました。みずをいれるポリようきほど、おおく
 は、なかつたけれど、おなじくらしいおもい、おおく
 のから、かおをあげると、きのうのおんなのこが、はいて
 いたサンダルをぬいで、いきました。「かたほうだけは
 いてるなんて、へんだって、おばあちゃん、いうの」
 おんなのこは、サンダルを、リナのあしもとおきまし
 た。それから、くるりとむきをかえて、あるいていきま
 した。「まって」リナは、サンダルを、りようほうと
 ぎりしめ、あとをおきました。「わたし、リナ」おんなの
 こは、ゆつくりとふりかえって、いきました。「わたしは
 フェローザ」リナは、サンダルを、りようほうともさし
 だして、いきました。「ふたりのものだよ」「かたほうだ
 けはいても、しかたないでしょう」①フェローザは、か
 おをしかめました。「あなたが、きよう、ふたつともは
 て、あしたは、わたしが、ふたつともはくの」リナは、
 につこりわらって、いきました。「ともだちのしるしだ
 よ」フェローザもえがおになると、サンダルをうけとつ
 て、はきました。「あしたは、あなたのばんね」

よくじつ、みずをいれてもらうため、ポリようきをか
 えていたふたりは、あいさつをかわしました。リナが
 サンダルをはき、ながいれつに、ふたりならんで、じゅ
 んばんをまきました。キャンプにいるひとは、みんな、
 あたらしいいえを、まちのぞんでいました。リナのおか
 あさんは、いじゅうのためにあつまりに、でかけること
 がありました。ふたりのおんなのこは、イスマツとナジ
 ーブといつしよに、リナのテントのなかで、すずばんで
 す。②おとうとたちが、さわれないように、きをつけて、
 サンダルをおきました。イスマツは、はなからぎりをひつ
 ばろうとするし、ナジーブは、かじろうとするからです。
 「おとうさんとおねえちゃん、せんそうで、なくなつ
 たの」リナは、フェローザにかたりました。「おかあさ
 んとわたしは、イスマツとナジーブをつれて、よなかに

にげてきたの」うなずいたフェローザのほおを、なみだ
 がつたいました。「わたしには、もう、おばあちゃんし
 かないの」

リナとフェローザは、おてつだいが、ないとき、がっ
 こうのまどに、そつとちかづいて、なかをのぞきました。
 ③がっこうには、おとこのこが、べんきようするばしよ
 しか、ないのです。ふたりは、なまえをじめんにかいて
 れんしゆうしては、けしました。そうすれば、まちがえ
 も、だれにもきづかれずに、すむからです。ときには
 サンダルを、かたほうずつはくことも、ありました。

④ほかのこに、ゆびさされてわらわれても、きにしませ
 んでした。ゆうがたになり、そらが、こいあおいろにそ
 まると、いちばんぼしが、かがやきはじめます。リナと
 フェローザは、だんじきのはじまりをつける。つきの
 ほそながいかたちを、じつとみていました。ふたりは、
 おもいでばなしをしたり、あたらしいいえをゆめみて、
 ころごえて、はなしをしたりしました。

あるあさ、ふたりは、おがわにいて、サンダルをあ
 らつてきれいにしました。「リナ、はやくおいで」フェ
 ローザのおばあちゃんが、よびました。「なまえが、リ
 ストにのつて、おかあさんが、いつてるよ」フ
 エローザが、サンダルをもつて、ふたりは、じむしよへ
 かけつけました。リナは、つまさきだちで、はりがみを
 のぞきこみました。「おかあさんのなまえだわ！ほんと
 うだ！これでアメリカにいけるんだ」そういうと、とも
 だちのほうをみました。「わたしの、ないのね」フェ
 ローザは、ぼつりといつて、あしもとに、めをおとしま
 した。それから、かがんでサンダルをぬぐと、リナにわ
 ました。⑤「はだしじや、アメリカへはいけないでし
 よ」⑤フェローザは、リナをだきしめました。

しゅつぽつひの、きゆうえんかつどうかの、おじさん
 は、すうじのはいいたしるくでおおきな、しかくいふく
 ろをわたして、いきました。「だいじなしよるいは、す
 べてこのなかに、はいつていますからね」フェローザと
 おばあちゃんが、おわかれのあいさつに、やつてきまし
 た。リナは、あしをゆびさして、いきました。「みて。
 おかあさんが、はりしごとでためたおかねで、くつをか
 ってくれたの」「ほんものの、くつだね」フェローザは、
 あたらしい、くろのかわぐつに、みとれました。「はい、
 きようは、あなたのくぼんだよ」⑥サンダルがおしく
 て、リナは、なみだをうかべたわけでは、ありません。
 「さようなら」といって、フェローザは、きいろとあお
 の、いろあせたサンダルをうけとりました。そして「げ
 んきでね」といいました。リナは、まわりのひとにつづ
 いて、バスにむかいました。「まって！」フェローザは
 ともだちのところへかけよりました。「かたほうはあ
 なたが、もつていて」と、リナに、ひとつわたしました。
 「かたほうだけじゃ、こまるでしよ？」とリナ。「おも
 いでのサンダルだから」というと、もうひとつをかかけ
 ました。「ともだちのしるしだよ」リナのほおを、なみ
 だが、つたいました。サンダルを、かばんにそつと、いれ
 ると、バスにのりました。バスが、うごきだすと、フェ
 ローザもいつしよにならんで、はしりました。リナは、
 まどから、みをのりだしました。「アメリカで、またい
 っしよには、こうね。きつとだよ」

注・アフガニスタン：南アジア・中央アジアに位置する
 共和制国家。南隣にパキスタンがある。

《設問》

※すべての間の制限字数には句読点・符号を含むものとする。

問一 この文章に登場するリナとフェローザの性格を二人が出逢った頃の「相違点」と文章全体から読み取れる「共通点」を明確にして、三十五字以内で簡潔に書きなさい。

問二 線部①「フェローザは、かおをしかめました」とありますが、このときのフェローザの気持ちを三十字以内で簡潔に説明しなさい。

問三 線部②「おとうとたちが、さわれないように、きをつけて、サンダルをおきました」④「ほかのこに、ゆびさされてわらわれても、きにしませんでした」とありますが、二人にとつて「サンダル」がどんなものだったか、らですか。そのことを表している語句を文中から八字でさがし、書き抜いて答えなさい。

問四 ——— 線部③ 「がっこうには おとこのこが べんきょうするばしよしか ないのです」とありますが、この部分からどのようなことが読み取れますか。また、そういう状況に対して、どのように考えるか、簡潔に説明しなさい。

問五 ——— 線部⑤ 「フェローザは リナをだきしめました」とありますが、このときのフェローザの気持ちを三十字以内で簡潔に説明しなさい。

問六 ——— 線部⑥ 「サンダルがおしくて、 リナは なみだをうかべたわけでは ありません」とありますが、このときのリナの気持ちを三十字以内で簡潔に説明しなさい。